

## 付属ワークシート 解説編

※この付属ワークシート解説編は、付属ワークシートを使って研修等を行う際の演習の進め方、演習を通して受講者に考えてもらいたいポイントや進め方のヒントとなるような内容について解説しています。学校の実態や研修内容に照らし合わせながら、ご活用ください。

### ワークシートを使った講義の流れ（例）

1. 講義①：リーフレットなどを使い、発達障害の概要について解説。
- ↓
2. 演習①：事例 A～F について考え、ワークシートに記入。
- ↓
3. 演習②：ワークシートに書かれた視点をもとに、演習①の内容を共有。
- ↓
4. 講義②：演習をもとに、障害特性や支援方法についてより具体的に解説し、理解を深める。

## 1. 【講義①】リーフレットの「発達障害とは？」の図などを参考に、発達障害についての概要など、大枠を解説しましょう。

**解説1** 受講者の中には、日常の中で事例のような経験をしている方がいるかもしれません。特性を解説する前に、ペアワークなどで経験談を共有してもらおうとよいでしょう。

**解説2** 経験談の共有では、「こんなことがあって（教員が）困った」という話題になることも想定されます。演習を通して「（発達障害の）特性を知る→児童・生徒が困っていることに気付く→児童・生徒の困っていることを軽減するためにどのような方法があるかを考える」ことが大切です。ここでは、児童・生徒の「困り」に気付くことができるよう、特性について丁寧に解説しましょう。必要に応じて【リーフレット事例の補助資料】もご活用ください。

## 2. 【演習①】リーフレットにある事例A～Fについて、担任の話参考に児童・生徒が何に困っているのか、また、どのような指導や支援があるとそれらの困りを軽減できるか、考えてみましょう。

### 事例A

（Aさんの担任）

次の授業は、体育です。先週まで体育はグラウンドで行っていましたが、急に雨が降ってきたため「雨なので、体育は体育館に変更です」と伝えました。すると、Aさんは「なぜ、グラウンドではないのか」と言い、「雨に濡れて風邪をひくから」と伝えても、Aさんは動こうとしません。

Aさんが困っていること

Aさんの困りを軽減するための指導や支援方法

**解説3** ワークシートの事例A～Fは、リーフレットに対応しています。リーフレットを併せてご活用ください。取り扱う事例は、学校からのオーダーやニーズ、実態、研修内容等に応じて設定してください。

**解説4** 受講者は事例の様子から児童・生徒の「困り」を、児童・生徒の特性を踏まえて考えます。また、その「困り」を軽減するための指導や支援方法を考えます。

指導や支援の方法を考える際には、環境設定、個々の特性に応じた本人とのルール決め、事前の支援や合理的配慮の視点等にも触れましょう。

**解説5** 必要に応じて、ペアワークで考えるのもよいでしょう。

### 3.【演習②】演習①で考えたことを、次の視点で共有してみましょう。

- ・児童・生徒の困りや、困りを軽減するための指導や支援方法について
- ・発達障害のある児童・生徒への指導や支援をするにあたり、演習を通して気付いたことや考えたこと

**解説6** 演習①で考えたことを共有しましょう。指導や支援の方法については、答えは一つではないため、受講者全体で様々な方法を共有できると指導や支援の視点が広がります。

**解説7** さらに、特性を踏まえた指導や支援について考えたことで、新たに気付いたことや考えたことを共有できるようにしましょう。

例えば、「特性を知ることが、一人ひとりに応じた指導・支援につながること」、「必要な指導・支援を考えて実践することは、発達障害のある児童・生徒だけでなく、他の子どもたちへの配慮にもつながること」というような点が挙げられるとよいです。

### 4.【講義②】演習をもとに、障害特性や支援方法についてより具体的に解説し、発達障害の理解を深めましょう。

**解説8** 障害特性や支援方法について、より理解を深められる資料を用意し、説明します。

必要に応じて、【リーフレット事例の補助資料】もご活用ください。

支援や指導の方法は一つではなく、一人ひとりの実態に合ったものであることの重要性や、指導や支援の原則についても触れるとよいでしょう。

**解説9** 話し合いの中で出なかった指導や支援方法の例等があれば、示せるとよいでしょう。

共有した内容や例示だけが答えではなく、実態把握をした上で、一人ひとりに応じた指導や支援の方法を考えることが重要であることにも触れましょう。

児童・生徒が苦手さを軽減するためのスキルや、自分の強みを伸長するスキルを身に付けることが、持てる力を発揮することや生きやすさにつながります。そのためには、できるだけ早い段階からの適切な指導や必要な支援が欠かせません。

「二次的な障害は、周囲の正しい理解や適切な関わりによって防ぐことも、低減することもできる」と言われています。発達障害について理解を深めるとともに、一人ひとりに応じた適切な指導と必要な支援を行うことが大切です。

## 【リーフレット事例の補助資料】

## ケースA・D・E(☞)自閉スペクトラム症の特性を踏まえて

## 特性

- 相手の気持ちや周囲の状況、雰囲気を読み取ることが苦手である。
- 見通しが持ちにくいことで、不安が高まる⇒見通しが持てると、安心して取り組める。
- 感覚（聴覚、味覚、触覚など）が過敏なことがある。（例えば…小さな音が気になる、味や食感で食べられないものがある、決まった洋服しか着られない）
- 聴覚情報よりも視覚情報の方が比較的理解しやすい。
- 言葉が豊富でも、使い方や意味の理解が独自のであったり、比喩や冗談などの理解が難しく、字義どおりに言葉の意味を解釈したりすることがある。
- 言葉で表現されない「暗黙の了解」の内容をイメージすることが苦手である。
- 言葉の裏にある意味や感情を理解することが難しく、相手から誤解されてしまうことがある。
- 個々の障害の程度は連続体（スペクトラム）であり、区分することは難しい。

ケースA : 急な予定の変更に対して…

## ケースAの具体的な支援の例



- その日の予定や授業の予定の見通しが持てるようにする。
  - ・晴雨両方のスケジュールの予告
  - ・スケジュールを見えるように提示する
- 見通しが持ちにくい場面が予想される時には、状況に応じた行動の仕方を具体的に事前に伝える。

ケースD : ざわざわした環境の中で…



## ケースDの具体的な支援の例

- 特性を理解し、刺激を軽減できるようにする。
  - ・授業開始時の教室環境を整える
  - ・耳栓やノイズキャンセリングイヤホン等、支援機器の活用等
- 苦手な刺激に対しても、少ない刺激や短い時間から徐々に慣れていけるよう指導し、経験の幅を広げられるようにする。

ケースE : 言葉で表されない指示に対して…



## ケースEの具体的な支援の例

- 「何をするのか」ということを、具体的に伝える。
  - ・何をするのかを具体的に言語化して伝える  
例「クラスのプリント棚から、プリントを全て持って来てください。」
  - ・係の仕事内容を予め掲示しておく
- ソーシャルスキルトレーニングなどを設定し、人との関わりに必要なスキルの向上につなげられるようにする。

## ケースB (限局性) 学習障害の特性を踏まえて

### 特性

- 読む、書く、計算する等の能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す。
- 特定の学習活動に困難があるため、例えば「板書をすることが多い教科」等、教科や単元に対する取組にばらつきが出ることもある。

ケースB : 板書が間に合わない… (書くことの困難さ)



### ケースBの具体的な支援の例

- 板書の際、大事なところだけを空欄にしたプリントを渡し、書く量を減らす。
- 書きやすいマス目のノートを用意する。
- レポートや作文は、パソコン等の機器の使用も可能とする。
- 個々の児童・生徒に応じた苦手さを軽減する方法を見付け、児童・生徒に身に付けさせる。

## ケースC・F (注意欠如・多動症)の特性を踏まえて

### 特性

- 注目すべき箇所が分からない、注意持続の時間が短い、他のことに気を取られやすいことがある。
- 周囲のことに気が散りやすいことから、一つ一つの行動に時間が掛かることがある。
- 衝動の抑制が難しかったり、自己の言動や状況を客観視することが難しかったりするため、失敗を繰り返したり、自分の行動を調整（コントロール）することが苦手だったりする。
- 身体の全体や一部が常に動いてしまうという多動性により、じっとしていることが苦手で、喋っていることが多い。

ケースC : 忘れ物が多い…



### ケースDの具体的な支援の例

- 児童・生徒に合った方法を習慣化し、身に付けられるようにする。
  - ・必要なものをメモ（リストアップ）できるようにする
  - ・チェック表を作成し、自分でチェックできるようにする
  - ・忘れやすいものを所定の場所に入れることを指導する

ケースF : 落ち着きがない…



### ケースFの具体的な支援の例

- 「今から説明をします。最後まで聞いてから手を挙げてください」など、具体的な約束をあらかじめ全員に向けて伝えておく。
- 児童・生徒が落ち着いているときに行動目標をいくつか提示し、その中から2、3項目を児童・生徒自身が自己決定できるようにする。また、行動目標を達成したり、達成しようとする姿勢を褒め、意欲を高められるようにする。
- 前面の掲示物を減らす（視覚的な刺激を減らす）などの環境調整を行う。

**【二次的な障害を防ぐために】**衝動的な行動や多動は問題行動と捉えられ、周囲の人から叱られることが多くなりがちです。また、うまく取り組むことができない失敗経験が重なると、自信や意欲の喪失、自尊感情の低下につながる場合があります。特性や強みを正しく理解し、できたことを評価されたり褒められたりする機会を増やすことは自己肯定感や意欲を高め、二次的な障害を防ぐことにつながります。